

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 50人

② 算数 50人

③ 理科 50人

#### 5 留意事項

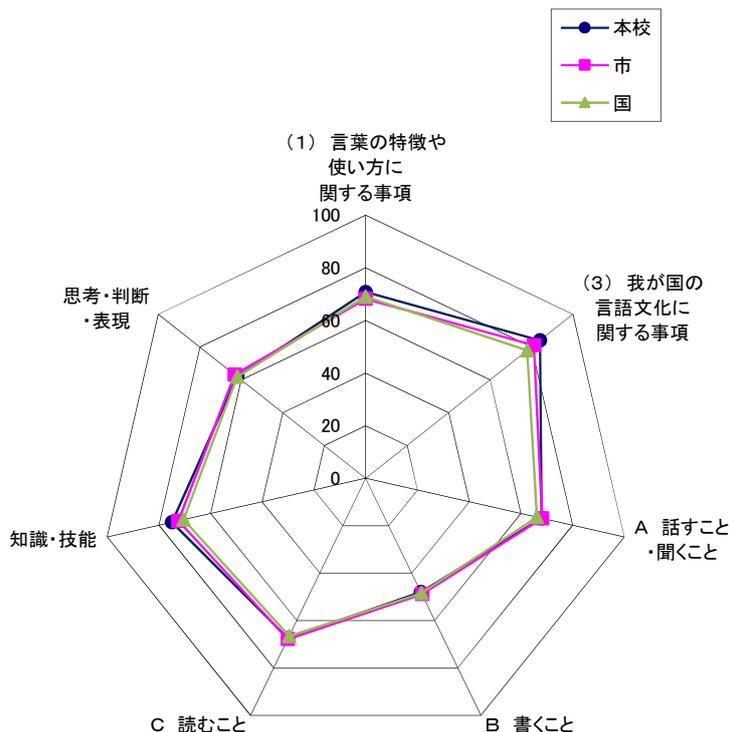
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.8	68.2	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.0	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	68.0	68.2	66.2
	B 書くこと	48.0	48.9	48.5
	C 読むこと	67.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	75.0	72.5	70.5
	思考・判断・表現	62.0	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○話し合いの一部を読み、ある発言に対する補足説明の目的を理解できた児童の正答率は、全国平均より高い。</p> <p>●「親しむ」を漢字で書く設問の正答率は、全国平均より低い。熟語に比べ、送り仮名のある漢字を書くことに課題がある。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字の習得については、今後もAIDリルや問題集、問題プリントなどで繰り返し練習させ、日常生活の中で適切に使うことができるように指導する。</p> <p>・漢字を学習する際には、漢字のもつ意味を考え、音読みや訓読み、送り仮名にも注意して練習するよう指導する。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○文字の位置、字間、行間などの配列に気を付けて文章を書くことを理解している児童の正答率は、全国平均より高い。</p>	<p>・今後も、原稿用紙や便箋などの書式に対応し、用紙、半紙、画用紙や模造紙などに書く際には、文字の大きさや配列などに気を付けて書くよう意識付けを図る。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○話し合いの中で、聞き手が話し手に質問して知りたかったことは何かを捉えることができた児童の正答率は、全国平均より高い。</p> <p>●話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめ、条件に合うように文章で表現することができた児童の正答率は半数に届かず、全国平均の値とほぼ同程度であった。話し合いを通じて自分の考えを広げることや、条件に合うように自分の考えを文章で表すことに課題がある。</p>	<p>・話し合いの際には、話し手の考えと自分の考えを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることができるよう意識付けを図る。</p> <p>・文字数を指定したり、文章中の言葉や文を取り上げたりするなど、指定された条件に合わせて自分の考えをまとめ表現する機会を多く取り入れる。</p>

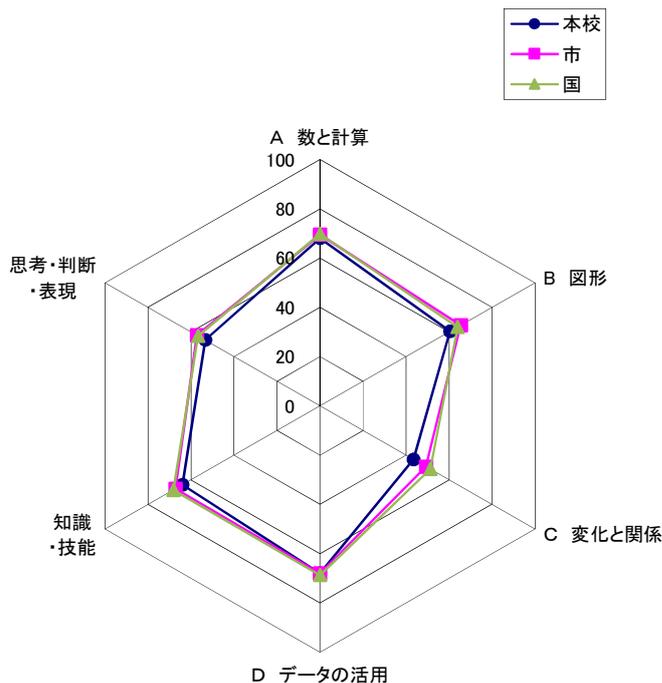
<p>B 書くこと</p>	<p>平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。  ○最初に書いた文章と書き直した文章を読み比べ、どのような点で推敲したのか理解できた児童の割合は、全国平均の値よりやや高い。  ●推敲後の文章について、伝え合いをもとに自分の考えをまとめ、条件に合うように文章で表す問題では正答率が4割弱で、全国平均の正答率とほぼ同程度であった。書いた文章のよいところを見つけることや、条件に合うように自分の考えを文章で表すことに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書く活動に慣れるために、テーマや条件を決めて短い文を書く活動を定期的実施する。</li> <li>・文字数を指定したり、文章中の言葉や文を取り上げたりするなど、指定された条件に合わせて自分の考えをまとめ表現する機会を多く取り入れる。</li> <li>・書いた文章を推敲したり、互いに文章を読み合って感想や意見を伝え合ったりするなど、文章全体の構成や書き表し方について考える機会を多く取り入れる。</li> </ul>
<p>C 読むこと</p>	<p>平均正答率は、全国平均よりやや高い。  ○物語文を読み、描写をもとに登場人物の関係を捉えたり、人物像や物語の全体像を想像したりすることができる児童の正答率は、全国平均よりやや高い。  ●物語文の表現の効果を捉えることができた児童の正答率は、全国平均よりやや高いものの6割程度であった。想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について考えることに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の取り組みとして読書活動に継続して力を入れるようにする。</li> <li>・物語文を読む際には、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目させるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.0	69.5	69.8
	B 図形	60.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	43.5	49.3	51.3
	D データの活用	68.0	68.0	68.7
観点	知識・技能	64.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	53.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均よりも低い。</p> <p>○表の意味をよく理解している。合計と部分との数量関係に着目して、ある項目(部分)に当たる数を求める問題の正答率が高い。</p> <p>●問題場面での目的に応じて積を概数で見積もる問題では、県や国の平均より高いものの正答率は3割程度であった。四則計算の結果の見積もりについて課題がある。</p> <p>●例を基にしながら、ほかの場合について、求め方を式や言葉で記述する問題の正答率が低い。問題場面を適切に理解し、数量を表す式について理解することに課題がある。</p>	<p>・切り上げや切り捨てにより大きく見積もったり小さく見積もったりする場面を取り上げ、生活に生かせるようにする。</p> <p>・問題場面を適切に理解できるようにするために、立式した理由を説明したり、話し合ったりする時間を確保する。</p> <p>・友達と意見を交換し合うことで、一つの問題場面でも様々な立式の方法があることや、友達の考えた式が表す意味について考えを深める場面を設定する。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均よりも低い。</p> <p>○平行四辺形の性質についてよく理解している。示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目して、どのような図形かを判断する問題の正答率が高い。</p> <p>●辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形を書くプログラムを選ぶ問題の正答率は、県や国の値を大きく下回った。ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解が低い。</p> <p>●プログラミング的思考について課題がある。</p>	<p>・図形の意味や特性、構成の仕方について理解を深めるために、図形を構成する要素について、自分の言葉でまとめる時間を設ける。また、友達と意見を交換し合ったり、学級でまとめたりすることで、図形に対する理解を深められるようにする。</p> <p>・図形の作図を行う学習では、順序立てて考えるプログラミング教育を取り入れ、プログラミング的思考力を育む。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均よりも低い。</p> <p>●百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題の正答率が低い。基準量・比較量・割合の関係に課題がある。</p> <p>●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題の正答率が低い。伴って変わる二つの数量の関係の理解に着目し、変化の規則性を捉えることに課題がある。</p>	<p>・問題文の捉え方や図の見方などを身に付けて基準量や比較量、割合の関係を理解できるよう、繰り返し練習問題に取り組ませる。</p> <p>・問題文で指示された通りに記述で説明することができるようにするために、式の意味や立式の理由を説明したり、話し合ったりする時間を確保する。</p> <p>・一方が2倍、3倍、4倍・・・となると、他方はどのように変化するかという視点で考えるよう助言する。</p>

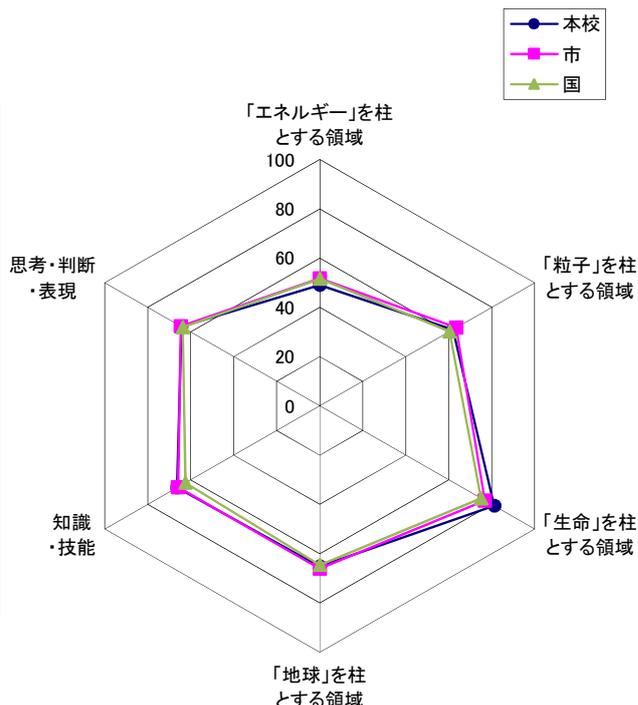
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均よりもやや低い。</p> <p>○分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えながら考察する問題の正答率は、全国平均より高い。</p> <p>●複数の円グラフから知りたい情報が分かるグラフを選択する問題では、8割の児童が正しく選択することができている。しかし、選択した円グラフの読み取りでは、正答率が6割に届かず全国平均より低かった。情報の読み取りに課題があるといえる。</p>	<p>・普通の授業から、問題をしっかりと確認すること、情報を正しく読み取ること、見直しをして確認をすることを指導する。</p> <p>・社会や理科など他の教科においても取り上げ、グラフの活用の仕方について考えを深める。</p>
----------	--	---

# 宇都宮市立西が岡小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	49.0	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.0	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	81.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	65.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.4	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国平均より低い。</p> <p>○問題を解決するために必要な実験結果選ぶ問題の正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>●直進する光の性質をもとに、鏡を操作して指定した的に日光を反射させる実験結果を予想する問題では、正答率が全国平均より低かった。平面鏡の向きと光の性質など様々な条件を踏まえて実験結果を予想することに課題がある。</p>	<p>・時間と共に光の進む道が変わるのは、日光の位置が変化していることと関連付いていることを、具体的な太陽の動きの写真などを活用して視覚的に理解できるようにする。</p> <p>・直進する光の性質を利用した遊びを考え、体験する場を設け、知識の定着を図る。</p> <p>・予想や仮説を基に観察、実験などを行い、その結果を基に結論を導き出す授業を組み立て、問題解決の力を育成する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○スポイトを使って、メスシリンダーに水を正しく測り取る問題の正答率は、全国平均よりもかなり高い。</p> <p>●メスシリンダーの名称を答える問題の正答率は、全国平均よりもかなり低い。実験器具の理解について課題がある。</p>	<p>・実験器具の名称、器具の正しい使い方の定着を図るために、誰もが実際に手にふれて使う場面を増やす。器具の写真・名称の書かれた掲示物を学習環境の中に置き、いつでも見られるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○体のつくりを基にした昆虫の定義を理解しており、ナナホシテントウが昆虫であるかを問う問題の正答率は、全国平均よりもかなり高い。</p> <p>○育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出す問題での正答率は、全国平均よりもかなり高い。</p>	<p>・学校や地域の豊かな自然の中での体験的な学習活動を意識して取り入れることを、今後も継続する。</p> <p>・いつでも昆虫の体のつくりを調べる活動ができるように、身近で飼育できる環境を整え、直接体験を充実させる。</p>

<p>「地球」を 柱とする領域</p>	<p>平均正答率は、全国平均よりやや高い。 ○鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを捉える問題の正答率は、全国平均よりかなり高い。 ●気温の変化について、他者の予想を基に記録の結果を表したグラフを選ぶ問題の正答率は、全国平均より低い。仮説を基に実験結果を予想することに課題がある。</p>	<p>・実験方法の妥当性や結果の見通しなどについて、児童同士で検討する場を設定する学習活動を取り入れる。 ・科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実させ、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。</p>
-------------------------	--	--

## 宇都宮市立西が岡小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」で肯定的な回答をした児童の割合が、いずれも全国平均より高く、本校児童が規則正しい生活を送っていることが分かった。今後も、高い意識で望ましい生活を過ごしていけるように、家庭科や保健体育、学級活動の学習を通して、児童に伝えていきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で肯定的な回答をした児童の割合が、いずれも全国平均よりかなり高く、相互に関係性があると思われる。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な回答の割合も高く、学校が児童から信頼を得ていることが分かる。今後も引き続き児童のよいところを認め、児童の自己肯定感を高めていきたい。

●「読書は好きですか」で肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を大きく上回っていた。一方で「新聞を読んでいますか」で肯定的な回答をした児童は、全国平均を大きく下回っており、読むことに対して苦手意識をもってはいないが、新聞を読んでいない児童が多く、社会の出来事への関心が低いことがうかがえる。今後は、社会や国語の授業で新聞を活用したり、社会情勢に目を向けたりすることで、社会で起こる様々な事象に児童が興味をもてるようにしていきたい。

●「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立っていると思いますか」という設問でほとんどの児童が肯定的に回答し、ICT機器の教育的効果がうかがえる。一方で「学校で、学校の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」の肯定割合が低く、ICTの活用の仕方に課題があることが分かる。今後は、タブレット端末操作の習熟度を高め、有効な形で学習に取り入れるようにしたい。タブレット端末の特性を生かして、児童が自分の意見をまとめてたり深めたりすることに繋げたい。

## 宇都宮市立西が岡小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味を高める導入や課題提示の工夫</li> <li>○教科的横断的な視点で、各教科等の関連付けを工夫</li> <li>○体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入</li> <li>○自力で課題解決にあたる時間の確保</li> <li>○ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫</li> <li>○目標や内容、個人の理解度に応じた多様な学習形態の工夫</li> <li>○ICT機器や一人一台端末、図書等の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりできていると回答している児童が8割を超え、全国や県の平均より高い。今後も学び合いの場を工夫し、学習意欲を高めていきたい。</li> <li>・国語では、自分の考えをまとめ、ペアやグループで伝え合うことにより、叙事的・描写的な表現を読み取ることが概ねできていると考えられる。</li> <li>・算数では、表やグラフについて、学習した後も他教科や特別活動でのまとめや発表の際に活用させる等、既習の学習内容を生活の中に生かす場面を設定して取り入れてきた結果、理解が深まったと考えられる。</li> <li>・理科では、実感を伴った体験活動や、1人1台タブレットを活用したり、実験・観察の記録を写真などで蓄積したりすることで、様子の変化や実験の結果を、自分の言葉でまとめられるようになってきた。</li> <li>・タブレット端末を用いて自分の考えをまとめたり、友達と意見を交換したりするなどの活用が十分とは言えない。タブレット端末の特性を生かして、児童が自分の意見をまとめていくことに繋げたい。</li> </ul>

<p>分かる授業を目指した授業力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル（つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる）」を取り入れた授業の実施</li> <li>○児童への言葉掛け、学習方法、教材、AI型学習ドリルなど、個に応じた支援の工夫</li> <li>○課題提示、教材提示、発問の工夫（特別支援教育の視点を入れる。）</li> <li>○児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上</li> <li>○授業の終末で学習内容を振り返り、学んだことを共有する場の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の内容はよく分かりますか」の設問に対して、国語、算数、理科ともに、全国平均より高い。</li> <li>・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童は約8割で、全国平均と同じ程度である。</li> <li>・授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっていたと肯定的に回答している児童は8割を超え、全国平均よりも高い。</li> </ul>
<p>基礎学力の定着と家庭学習の習慣化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方、発言の仕方などの繰り返し指導</li> <li>○朝の学習の時間の効果的・計画的な活用</li> <li>○単元や学期ごとに復習する機会の設定</li> <li>○個人差に応じた適切な分量・内容の宿題、自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化</li> <li>○「学習チャレンジ週間」の実施による、家庭と連携した学習習慣の定着と意欲の向上</li> <li>○夏期学習会（学習ボランティア）</li> <li>○学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項、話すことや聞くことの正答率が、全国平均より高い。</li> <li>・算数では、数と計算、データの活用の正答率が、全国平均とほぼ同程度であった。</li> <li>・理科では、「生命」を柱とする領域の正答率が、全国平均より高かった。</li> <li>・学校の授業の予習復習をはじめ、家で自分で計画を立てて勉強していると肯定的に回答した児童の割合は、県平均より低いものの全国平均と同程度であった。</li> <li>・家で学校からの課題で分からなかったことがあったとき、教師や友達、家族などに聞いたり、自分で調べたりして解決している児童がほとんどであった。そのままにすると答えた児童はかなり少なかった。</li> </ul>